

大会参加・研修報告書	
1. 大会・研修会名	第16回 九州女性審判研修会（唐津自動車学校旗高校生バスケットボール大会）
2. 研修期間	平成31年3月9日（土）～10日（日）
3. 参加者	片岡 瑞季（島原）、松本 加奈（大村）、池田 美紗子（長崎）、 吉村 愛菜（長崎）、山本 美月（佐世保）、久原 裕未（佐世保）
4. 日程	<p>9日（土）審判会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■全て2POで実施、3会場にて大半の方が1人2ゲーム担当</li> <li>■糸島-唐津商業（女子） CC:久原裕未（長崎）U1:前原早希（福岡）</li> <li>■唐津商業-伊万里（女子） CC:久原裕未（長崎）U1:名城真由美（沖縄）</li> <li>■唐津南高校に集合し、講義・ディスカッションを実施 『女性審判の現状と課題』講師：中西 波穂（熊本県S級）</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>10日（日）実技研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■全て3POで実施</li> <li>■糸島-唐津工業（男子） CC:久原裕未（長崎）U1:萩原春乃（福岡）U2:村上明香（熊本）</li> <li>■唐津東-糸島（女子） CC:村田南美子（宮崎）U1:平田理紗（福岡）U2:久原裕未（長崎）</li> </ul>
5. 講義内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■『女性審判の現状と課題』講師：中西 波穂（熊本県S級）</li> </ul> <p>※所属県や年代、カテゴリーが混在するように5～6名ほどの5グループを事前に編成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①講師の紹介（これまでの審判活動の現状、産後の苦勞、女性分科会についてなど）</li> <li>②グループ内で自己紹介（カテゴリー、審判活動の経験、自身のストロングポイントとウィークポイントなど）</li> <li>③グループ内でディスカッションのテーマを決める</li> <li>④テーマを全体で共有</li> <li>⑤ディスカッション（テーマに対する自分たちの課題と解決策を討議）</li> <li>⑥全体で意見を共有</li> <li>⑦総括（講師：中西氏より）</li> <li>⑧窪田先生、紀伊先生より</li> </ol>
6. 所感	<p>【講義について】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「女性」という枠をどう捉えるか。女性ということをも特別視するわけではなく、現状実際にある問題を周囲にどのように理解してもらうかも課題。</li> <li>・女性分科会の存在や活動を知ってもらうことも必要。</li> <li>・ディスカッションで終わるのではなく、可能なことは自分レベルから改善するための実践を重ねていく必要がある。</li> </ul> </li> <li>②成果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の身近な悩みや不安もさらけ出せる仲間がいることを実感し、年代や審判歴も関係なく、女性審判員としての目標を明確にできた。</li> <li>・オンザコート以外にも、女性が審判活動を続けやすい環境づくりを県内でもどのように作っていくか考える契機になった。</li> </ul> </li> </ol>

## 6. 所感

### 【実技研修について】

#### ①課題

- ・高校男子の拮抗したハードゲームのCCとして、一貫した基準を示すことができなかった。初めて組むクルーに対してもガイドラインに沿って正しく判定していくことで、十分にリードしていかななくてはいけなかった。
- ・EOQに起こった現象について十分に目を当てること。ゲームコントロールにつながる現象を決して見逃さないように、チェックイン・チェックアウトについてもクルーと協力できるようにする。

#### ②成果と今後の目標

- ・初めて組むクルーばかりだったが、PGCで基本的なメカニクスや意識して協力したいメカニクスを共有できた。3P0のローテーションのタイミングや、TやCのレベルの調整などを、ゲーム中に修正できることは積極的に行えた。
- ・選手、コーチ、クルーとのコミュニケーションやアイコンタクトを大事にしてコートに立った。それぞれの感情を汲み取る感性を養い、プレイヤーファーストの精神を忘れないようにしたい。
- ・プレゼンなども含めて基本に立ち返り、次年度の上級審査会でA級ライセンスを取得する。

### 【本研修会に参加して】

3年ぶりの参加で、非常に感慨深いものがあつた。今回学んだことを地元で発揮することで還元していきたい。

今回、CCとして、上級を目指す審判としての課題や目標を具体的に持つことができた。また、女性分科会というものをどのように周知していくか、一女性審判員として何ができるかを追求していきたいと思う。女性ということにとらわれすぎてはいけないと思うが、県内で審判資格を持つ女性審判が、少しでも活動しやすい環境づくりや人間関係づくりができるように、できることから行動に移していきたいと思う。

このような研修会に派遣していただけることに感謝し、謙虚な気持ちで臨んでいきたい。また、諸先輩方から学んだことを、後輩たちにも伝えていくことが自分の役割の一つだと思うので、自分の人間力を磨きながら、コート内外で学ぶ姿勢を大事にしていこうと思う。学ぶ機会をいただき感謝しています。ありがとうございました。